

10.25 研究室会議・冬学期本格開始

星空新歓パーティーに30人集う

新学期初の都市デザイン研究室会議が、10月25日(火)、工学部8号館81講義室において行われた。来春修了を控えるM2からは、伊藤晃久院生が「木造密集市街地におけるグループホームを主眼とした介護まちづくり」(仮)と題して発表。都市計画の古くて新しい課題「木密」について「介護」方面から切り込む試みを披瀝。また、金宗範M2は「韓国都市のアパート団地における課題に対する研究 - 沿道型住居の事例を通して - 」とのテーマのもと、韓国における新たな集合住宅デザインの可能性を問うた。合わせて、この10月からの研究室新メンバー6人の自己紹介も行われた。会議後は、14号館ロビーにて集合写真撮影ののち、10階テラスにおいて新歓&お別れパーティーを開催。秋風吹く星空のもとで、7カ国(日、韓、中、台、独、泰、越)の30人余が交流をあたためた。



西村教授を中心に乾杯

新入生紹介(後編) ソン・ジェンワ・宋珍和(D1) ソウル大学大学院(都市設計研究室)を修了後、半年の実務経験を経てデザイン研へ。今年に入ってから学習し始めた日本語ですでに自己紹介レジュメを完璧に仕上げる韓流美人の語学力に一同脱帽。「韓国、ベトナムなどの都市再開発プロジェクトへの取り組みを通じて、日本の都市再開発手法に興味を持ちました」

馬場美彦(D1) 京都大学農学部卒業・ロンドン大学都市計画研究科修士修了。京都まちづくりセンターに勤務しながら、京都の都市づくりについての方法論深化を追究してデザイン研入り。「図らずも京都に縁のある面々が一定数いる(後藤M1は京大卒、永瀬D1は元京都在住、ウィモンラートM1も滞京都経験あり)この研究室のなかで、京都を盛り上げていければ、と」

ウィモンラート・イサラトゥムヌン・ユー(研究生) チュラロンコン大学修士修了。修士論文テーマは「サン・パン地区における都市保全・都市更新プログラムについての研究」。2003年6月から2004年1月までの半年間、日本学術振興会のプログラムで滞日。奈良女子大学において「まちづくり」を学んだ。「日本の「まちづくり」を換骨奪胎して、タイに合ったコミュニティ計画を確立したいです」



安藤義和D4、博士課程単位取得退学 2002年入学。「家は箱根の老舗温泉旅館。登録文化財に指定される建物を持ちながら、相続などの関係ゆえ、父の代限りで経営断念の途を取らざるを得ませんでした。その残念な体験から、研究を志しました。子供の誕生、結婚、という人生の大イベントが重なるなかで研究の進展はなかなか思うに任せなかったわけですが、今後は旅館の資源を活かしたビジネス・モデルの構築を、実践的に試行していこうと思っています。デザイン研での研究蓄積と人脈を利用して、博士論文をまとめたいと考えています」

みどり計画 in labo 新歓パーティーの席上、鄭・竹山M1による

鉢植えの頒布が行われた。「これからの乾燥の季節、緑でしっとりした研究室を」とのねらいで、20鉢ほどが希望者の手に。過密人口とパソコンのフル稼働のおかげで、院生室は冬でも暑苦しく、息苦しい。皆の机に緑があふれ、通路にさわやかな風が吹き通る明日は果たして来るのか?! (鉢植えにまだ若干の数的余裕あり!)



前号で報じたイタリア・セルモネータでの「歴史的都市」ワークショップ後、M1を中心とした8名は南イタリアの都市をめぐる一週間の旅行に出た。

南イタリア紀行 (M1 江口久美)

ローマで西村先生との最後のランチを楽しんだ次の日、私たちは電車でアドリア海沿岸の港町バーリへと移動しました。アドリア海に沈む夕日を見るため、海岸まで黄昏のまちを走りましたが、海岸は無く、代わりにギリシャ行きのフェリーを見送るにとどまりました。次の日、私たちは、少し足を伸ばして世界遺産 **ナポリへ向かうバス車中から Alberobello アルベロベロ**(美しい木

という意味)を見にいきました。建物は確かに美しかったです、観光地化されていて、実際の生活が失われているのが残念でした。その足でバスに乗り、ナポリまで内陸を横断しました。ちょうど夕暮れ時に、何も無い平野をバスは走りました。視界には、遠く煙る地平線に沈む夕焼けだけが目に映りました。バスの中の誰もが無言で、その景色を見つめていました。淡い桜色から、深い海の色まで、夜がやってくるまで。カメラの電池が切れていた私は、心の中に一生懸命忘れないようにその光景を焼き付けました。



最大の楽しみはやはり食事

ナポリ二日目、ポンペイとアマルフィを訪れました。ポンペイは、思ったよりも、乾いていて、陽射しと空の色で、悲しい過去が蒸発したように感じました。その一方、廃墟になったことが、つい昨日のことのように感じました。午後、ソレント半島をぐるりとまわってアマルフィまで行きました。余り時間がとれなくて残念でしたが、海沿い、谷筋に発展したまちの構造に、少し触れることができました。



ナポリ三日目、最後のバカンスとして、カプリ島に行きました。運良く1回目なのに、青の洞窟(Grotta Azzurra)に入ることができました。中は暗いのですが、船の下の水だけが、コバルトブルーの光に染まっていました。世界で一番きれいなグランブルーでした。その後、島の反対側の Marina Piccola までバスで行き、海水浴をしました。岩の上から飛び込むこともしました。水は限りなく透明に近いブルーでした。

北沢教授、教授昇進後の大学院初講義 - 講義録・抄 10月20日(木)、工学系研究科 COE (建築・土木・都市工) のオムニバス講義「都市のストックマネジメント」第2回「資源活用型の都市づくり」から
「空間、人間に時間を加えた三『間』が、都市の資源。それらを構造的に評価して、活用の構想を立てて、戦略を練って運用する。そのサイクルを回してゆく価値観、それがいま問われている」「並べると2m50の厚さになる横浜市史を、執務後に日課として読んだ。全巻読み通すのに15年かかった。3ページ読めば安眠できる優れものだ(笑)。一部分だけ読むと、たしかにつまらない。けれども、全部読み通すとそれなりに味のあるものだよ。都市デザインをやるならば、都市の歴史は避けては通れないからね」

編集後記 大野村、喜多方、鞆の浦、八尾など各プロジェクトは「実りの秋」。毎日のようにどこかのミーティングが行われ、腫れぼったい目をした院生が、リポビタンD片手に深夜の9階と10階の研究室を行き来する。一方、プロジェクト現地へは、ひっきりなしに遠征していく。M2は修論専念のために今秋で引退。「研究室開闢以来初めて」(西村教授談) 女性が半数を占めるM1が、プロジェクトを引っ張っていくことになる。(坂内)